



Cisco Unified IP Phone の設定値の設定

Cisco Unified IP Phone には、設定可能な数多くのネットワーク設定値とデバイス設定値が用意されています。電話機をユーザが使用できる状態にするには、これらの設定値の修正が必要になる場合もあります。電話機のメニューを使用して、これらの設定値にアクセスし、そのほとんどを変更することができます。

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco Unified IP Phone 7975G の設定メニュー \(P.4-2\)](#)
- [電話機から設定可能なオプションの概要 \(P.4-5\)](#)
- [ネットワークの設定メニュー \(P.4-6\)](#)
- [デバイス設定メニュー \(P.4-12\)](#)
- [セキュリティ設定メニュー \(P.4-29\)](#)

Cisco Unified IP Phone 7975G の設定メニュー

Cisco Unified IP Phone には、次の設定メニューが用意されています。

- [ネットワークの設定] メニュー：さまざまなネットワーク設定値を表示および設定するためのオプションを提供します。詳細については、P.4-6 の「ネットワークの設定メニュー」を参照してください。
- [デバイス設定] メニュー：ネットワークに関係しない各種の設定値を表示するための、サブメニューへのアクセスを提供します。詳細については、P.4-12 の「デバイス設定メニュー」を参照してください。
- [セキュリティ設定] メニュー：セキュリティ設定値を表示および変更するためのオプションを提供します。詳細については、P.4-29 の「セキュリティ設定メニュー」を参照してください。

[ネットワークの設定] メニューにあるオプション設定値を変更するには、オプションのロックを編集のために解除しておく必要があります。手順については、P.4-3 の「オプションのロック解除とロック」を参照してください。

オプション設定値の編集や変更に使用できるキーについては、P.4-4 の「値の編集」を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの「電話の設定 (Phone Configuration)」ウィンドウにある [Settings Access] フィールドを使用すると、電話機のユーザが電話機の設定値にアクセスできるかどうかを制御できます。

関連項目

- 設定メニューの表示 (P.4-2)
- オプションのロック解除とロック (P.4-3)
- 値の編集 (P.4-4)
- 電話機から設定可能なオプションの概要 (P.4-5)
- ネットワークの設定メニュー (P.4-6)
- デバイス設定メニュー (P.4-12)
- セキュリティ設定メニュー (P.4-29)

設定メニューの表示

設定メニューを表示するには、次の手順を実行します。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの「電話の設定 (Phone Configuration)」ウィンドウにある [Settings Access] フィールドを使用すると、[設定] メニューや、このメニューのオプションに電話機でアクセスできるかどうかを制御できます。[Settings Access] フィールドでは、次の値を設定できます。

- **[Enabled]** : [設定] メニューへのアクセスを許可します。
- **[Disabled]** : [設定] メニューへのアクセスを禁止します。
- **[Restricted]** : [ユーザ設定] メニューへのアクセスを許可し、音量の変更を保存することを許可します。[設定] メニューの他のオプションへのアクセスは禁止します。

[設定] メニューにあるオプションにアクセスできない場合は、[Settings Access] フィールドを確認してください。

手順



-
- ステップ 1** 設定ボタンを押して、[設定] メニューにアクセスします。
- ステップ 2** 次のいずれかの操作を実行して、目的のメニューを表示します。
- ナビゲーション ボタンを使用して、目的のメニューを選択し、[選択] ソフトキーを押します。
 - 電話機のキーパッドを使用して、メニューに対応する番号を入力します。
- ステップ 3** サブメニューを表示するには、[ステップ 2](#) を繰り返します。
- ステップ 4** メニューを終了するには、[終了] ソフトキーを押します。
-

関連項目

- [オプションのロック解除とロック \(P.4-3\)](#)
- [値の編集 \(P.4-4\)](#)
- [電話機から設定可能なオプションの概要 \(P.4-5\)](#)
- [ネットワークの設定メニュー \(P.4-6\)](#)
- [デバイス設定メニュー \(P.4-12\)](#)
- [セキュリティ設定メニュー \(P.4-29\)](#)

オプションのロック解除とロック

電話機から変更できる設定オプションは、電話機の動作に影響する変更をユーザが実行できないようにするために、デフォルトではロックされています。オプションを変更するには、これらのオプションのロックを解除する必要があります。

オプションを修正しようとしてもアクセスできないときは、ロックされた鍵のアイコン  が設定メニューに表示されます。オプションのロックが解除され、オプションにアクセスして修正できるときは、ロックが解除された鍵のアイコン  がこれらのメニューに表示されます。

オプションをロックまたはロック解除するには、****#** の順にキーを押します。この操作を実行すると、直前の状態に応じて、オプションがロックまたはロック解除されます。



(注)

[設定] メニューのパスワードがプロビジョニングされている場合、SIP 電話機で ****#** を入力すると、「パスワードを入力してください」というプロンプトが表示されます。

変更が完了したら、必ずオプションをロックしてください。



注意

****#** を押してオプションのロックを解除した直後に、****#** をもう一度押してオプションをロックすることはやめてください。このシーケンスは、電話機では ****#**** として解釈され、電話機がリセットされます。オプションのロックを解除した後にオプションをロックする場合は、10 秒以上待機してから ****#** をもう一度押してください。

関連項目

- [設定メニューの表示 \(P.4-2\)](#)
- [値の編集 \(P.4-4\)](#)
- [電話機から設定可能なオプションの概要 \(P.4-5\)](#)
- [ネットワークの設定メニュー \(P.4-6\)](#)
- [デバイス設定メニュー \(P.4-12\)](#)

値の編集

オプション設定値を編集するときは、次のガイドラインに従ってください。

- 数値と文字を入力するには、キーパッド上のキーを使用します。
- キーパッドを使用して文字を入力するには、対応する数値キーを使用します。キーを 1 回または何回か押して、個々の文字を表示します。たとえば、2 キーを 1 回押すと「a」、すばやく 2 回押すと「b」、すばやく 3 回押すと「c」です。しばらく待機すると、カーソルが自動的に進んで、次の文字を入力できるようになります。
- (IP アドレスなどに含まれる) ピリオドを入力するには、[.] (ピリオド) ソフトキーを押すか、キーパッドの * キーを押します。
- 押し間違えた場合は、[<<] ソフトキーを押します。このソフトキーを押すと、カーソルの左側にある文字が削除されます。
- 行った変更をすべて破棄するには、[保存] ソフトキーを押す前に [キャンセル] ソフトキーを押します。

**(注)**

Cisco Unified IP Phone では、必要に応じて、いくつかの方法でオプション設定値をリセットまたは復元することができます。詳細については、[P.9-16 の「Cisco Unified IP Phone のリセットまたは復元」](#)を参照してください。

関連項目

- [設定メニューの表示 \(P.4-2\)](#)
- [オプションのロック解除とロック \(P.4-3\)](#)
- [電話機から設定可能なオプションの概要 \(P.4-5\)](#)
- [ネットワークの設定メニュー \(P.4-6\)](#)
- [デバイス設定メニュー \(P.4-12\)](#)
- [セキュリティ設定メニュー \(P.4-29\)](#)

電話機から設定可能なオプションの概要

電話機で変更できる設定値は、表 4-1 に示すいくつかのカテゴリに分類されます。それぞれの設定値の詳細および変更手順については、P.4-6 の「ネットワークの設定メニュー」を参照してください。



(注)

各種設定メニューには、表示のみ可能なオプションや、Cisco Unified Communications Manager から設定できるオプションがいくつかあります。これらのオプションについても、この章で説明しています。

表 4-1 電話機から設定可能な設定値

カテゴリ	説明	[ネットワークの設定] メニューのオプション
DHCP の設定値	Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) は、デバイスをネットワークに接続したときに、そのデバイスに IP アドレスを自動的に割り当てるものです。Cisco Unified IP Phone では、デフォルトで DHCP が有効になっています。	DHCP を使う DHCP アドレス解放
IP の設定値	ネットワークで DHCP を使用していない場合は、手動で IP の設定を実行できます。	ドメイン名 IP アドレス サブネット マスク デフォルト ルータ 1 ~ デフォルト ルータ 5 DNS サーバ 1 ~ DNS サーバ 5
TFTP の設定値	DHCP を使用して電話機に TFTP サーバを通知しない場合は、手動で TFTP サーバを割り当てる必要があります。DHCP で割り当てられる TFTP サーバの代わりに、代替 TFTP サーバを割り当てて使用することもできます。	TFTP サーバ 1 代替 TFTP TFTP サーバ 2
VLAN の設定値	<ul style="list-style-type: none"> 管理 VLAN ID を使用すると、電話機で使用される管理 VLAN を変更できます。 PC VLAN を使用すると、電話機の背面に接続された PC は、そのポートのネイティブ VLAN の VLAN タグを削除しないサードパーティ製スイッチと相互動作できるようになります。 	管理 VLAN ID PC VLAN
ポートの設定値	ネットワーク ポートおよびアクセス ポートの速度と二重化方式を設定できます。	SW ポート設定 PC ポート設定

関連項目

- 設定メニューの表示 (P.4-2)
- オプションのロック解除とロック (P.4-3)
- 値の編集 (P.4-4)
- ネットワークの設定メニュー (P.4-6)
- デバイス設定メニュー (P.4-12)

ネットワークの設定メニュー

[ネットワークの設定] メニューには、さまざまなネットワーク設定値を表示および設定するためのオプションが用意されています。表 4-2 で、これらのオプションについて説明し、変更可能なオプションについては変更方法を示します。

[ネットワークの設定] メニューにアクセスする方法については、P.4-2 の「設定メニューの表示」を参照してください。



(注)

電話機には、[設定] メニューから直接アクセスする [ネットワークの設定] メニューも用意されています。このメニューのオプションについては、P.4-25 の「ネットワークの設定」を参照してください。

このメニューにあるオプションを変更するには、P.4-3 の「オプションのロック解除とロック」の説明に従って、オプションのロックをあらかじめ解除しておく必要があります。[ネットワークの設定] のオプションを変更するための [編集]、[Yes]、または [No] ソフトキーが表示されるのは、オプションのロックを解除した場合のみです。

オプションの編集に使用できるキーについては、P.4-4 の「値の編集」を参照してください。

表 4-2 [ネットワークの設定] メニューのオプション

オプション	説明	変更の手順
DHCP サーバ	電話機の IP アドレス取得元となる Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) サーバの IP アドレス。	表示のみ (変更不可)。
BOOTP サーバ	電話機が、設定を DHCP サーバではなくブートストラッププロトコル (BootP) サーバから取得するかどうかを示します。	表示のみ (変更不可)。
MAC アドレス	電話機固有のメディア アクセス制御 (MAC) アドレス。	表示のみ (変更不可)。
ホスト名	DHCP サーバが電話機に割り当てた、一意のホスト名。	表示のみ (変更不可)。
ドメイン名	電話機が配置されているドメイン ネーム システム (DNS) ドメインの名前。	<ol style="list-style-type: none"> [ネットワークの設定] のオプションのロックを解除します。 [DHCP を使う] オプションを [No] に設定します。 [ドメイン名] オプションまでスクロールし、[編集] ソフトキーを押して、新しいドメイン名を入力します。 [確認] ソフトキーを押し、[保存] ソフトキーを押します。

表 4-2 「ネットワークの設定」メニューのオプション（続き）

オプション	説明	変更の手順
IP アドレス	<p>電話機の Internet Protocol (IP; インターネットプロトコル) アドレス。</p> <p>IP アドレスをこのオプションで割り当てる場合は、サブネットマスクとデフォルトルータも割り当てる必要があります。この表の [サブネットマスク] オプションと [デフォルトルータ] オプションを参照してください。</p>	<ol style="list-style-type: none"> [ネットワークの設定] のオプションのロックを解除します。 [DHCP を使う] オプションを [No] に設定します。 [IP アドレス] オプションまでスクロールし、[編集] ソフトキーを押して、新しい IP アドレスを入力します。 [確認] ソフトキーを押し、[保存] ソフトキーを押します。
サブネットマスク	<p>電話機で使用されるサブネットマスク。</p>	<ol style="list-style-type: none"> [ネットワークの設定] のオプションのロックを解除します。 [DHCP を使う] オプションを [No] に設定します。 [サブネットマスク] オプションまでスクロールし、[編集] ソフトキーを押して、新しいサブネットマスクを入力します。 [確認] ソフトキーを押し、[保存] ソフトキーを押します。
TFTP サーバ 1	<p>電話機で使用される、プライマリの Trivial File Transfer Protocol (TFTP) サーバ。ネットワークで DHCP を使用していない場合、このサーバを変更するには [TFTP サーバ 1] オプションを使用する必要があります。</p> <p>[代替 TFTP] オプションを [Yes] に設定した場合は、[TFTP サーバ 1] オプションに 0 以外の値を入力する必要があります。</p> <p>プライマリ TFTP サーバとバックアップ TFTP サーバのどちらも電話機の CTL ファイルに記述されていない場合、[TFTP サーバ 1] オプションの変更内容を保存するには、CTL ファイルのロックを解除する必要があります。この場合は、[TFTP サーバ 1] オプションの変更内容を保存すると、電話機が CTL ファイルを削除します。</p> <p>CTL ファイルについては、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。CTL ファイルのロック解除については、P.4-29 の「セキュリティ設定メニュー」を参照してください。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 必要に応じて、CTL ファイルのロックを解除します。 DHCP を有効にしている場合は、[代替 TFTP] オプションを [Yes] に設定します。 [TFTP サーバ 1] オプションまでスクロールし、[編集] ソフトキーを押して、新しい TFTP サーバの IP アドレスを入力します。 [確認] ソフトキーを押し、[保存] ソフトキーを押します。

表 4-2 [ネットワークの設定] メニューのオプション (続き)

オプション	説明	変更の手順
TFTP サーバ 2	<p>プライマリの TFTP サーバが使用不能の場合に、電話機で使用されるオプションのバックアップ TFTP サーバ。</p> <p>プライマリ TFTP サーバとバックアップ TFTP サーバのどちらも電話機の CTL ファイルに記述されていない場合、[TFTP サーバ 2] オプションの変更内容を保存するには、CTL ファイルのロックを解除する必要があります。この場合は、[TFTP サーバ 2] オプションの変更内容を保存すると、電話機が CTL ファイルを削除します。</p> <p>CTL ファイルについては、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。CTL ファイルのロック解除については、P.4-29 の「セキュリティ設定メニュー」を参照してください。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 必要に応じて、CTL ファイルのロックを解除します。 2. [ネットワークの設定] のオプションのロックを解除します。 3. [TFTP サーバ 1] オプションに IP アドレスを入力します。 4. [TFTP サーバ 2] オプションまでスクロールし、[編集] ソフトキーを押して、新しいバックアップ TFTP サーバの IP アドレスを入力します。 5. [確認] ソフトキーを押し、[保存] ソフトキーを押します。
デフォルトルータ 1 デフォルトルータ 2 デフォルトルータ 3 デフォルトルータ 4 デフォルトルータ 5	電話機で使用されるデフォルトルータ ([デフォルトルータ 1]) およびオプションのバックアップルータ ([デフォルトルータ 2] ~ [デフォルトルータ 5])。	<ol style="list-style-type: none"> 1. [ネットワークの設定] のオプションのロックを解除します。 2. [DHCP を使う] オプションを [No] に設定します。 3. 目的の [デフォルトルータ x] オプションまでスクロールし、[編集] ソフトキーを押して、新しいルータの IP アドレスを入力します。 4. [確認] ソフトキーを押します。 5. 必要に応じてステップ 3 ~ 4 を繰り返し、バックアップルータを割り当てます。 6. [保存] ソフトキーを押します。
DNS サーバ 1 DNS サーバ 2 DNS サーバ 3 DNS サーバ 4 DNS サーバ 5	電話機で使用されるプライマリのドメイン ネーム システム (DNS) サーバ ([DNS サーバ 1])、およびオプションのバックアップ DNS サーバ ([DNS サーバ 2] ~ [DNS サーバ 5])。	<ol style="list-style-type: none"> 1. [ネットワークの設定] のオプションのロックを解除します。 2. [DHCP を使う] オプションを [No] に設定します。 3. 目的の [DNS サーバ x] オプションまでスクロールし、[編集] ソフトキーを押して、新しい DNS サーバの IP アドレスを入力します。 4. [確認] ソフトキーを押します。 5. 必要に応じてステップ 3 ~ 4 を繰り返し、バックアップ DNS サーバを割り当てます。 6. [保存] ソフトキーを押します。

表 4-2 [ネットワークの設定] メニューのオプション (続き)

オプション	説明	変更の手順
オペレーショナル VLAN ID	電話機がメンバーになっている Cisco Catalyst スイッチ上に設定された、補助バーチャル LAN (VLAN)。 電話機が補助 VLAN をまだ受信していない場合、このオプションは管理 VLAN を示しています。 補助 VLAN と管理 VLAN のどちらも設定されていない場合、このオプションはブランクです。	電話機は、電話機が接続されているスイッチから、シスコ検出プロトコル (CDP) を通じてオペレーショナル VLAN ID を取得します。VLAN ID を手動で割り当てるには、[管理 VLAN ID] オプションを使用します。
管理 VLAN ID	電話機がメンバーになっている補助 VLAN。 電話機がスイッチから補助 VLAN を受信していない場合のみ使用され、その他の場合は無視されます。	<ol style="list-style-type: none"> [ネットワークの設定] のオプションのロックを解除します。 [管理 VLAN ID] オプションまでスクロールし、[編集] ソフトキーを押して、新しい管理 VLAN 設定値を入力します。 [確認] ソフトキーを押し、[保存] ソフトキーを押します。
DHCP を使う	電話機で DHCP が使用されているかどうかを示します。	<ol style="list-style-type: none"> [ネットワークの設定] のオプションのロックを解除します。 [DHCP を使う] オプションまでスクロールし、[No] ソフトキーを押して DHCP を無効にするか、[Yes] ソフトキーを押して DHCP を有効にします。 [保存] ソフトキーを押します。
DHCP アドレス解放	DHCP で割り当てられた IP アドレスを解放します。	<ol style="list-style-type: none"> [ネットワークの設定] のオプションのロックを解除します。 [DHCP アドレス解放] オプションまでスクロールし、[Yes] ソフトキーを押して、DHCP で割り当てられた IP アドレスを解放します。この IP アドレスを解放しない場合は、[No] ソフトキーを押します。 [保存] ソフトキーを押します。
代替 TFTP	電話機が代替 TFTP サーバを使用しているかどうかを示します。	<ol style="list-style-type: none"> [ネットワークの設定] のオプションのロックを解除します。 電話機で代替 TFTP サーバを使用する場合は、[代替 TFTP] オプションまでスクロールし、[Yes] ソフトキーを押します。使用しない場合は、[No] ソフトキーを押します。 [保存] ソフトキーを押します。

表 4-2 [ネットワークの設定] メニューのオプション (続き)

オプション	説明	変更の手順
SW ポート設定	<p>ネットワーク ポート (10/100/1000 SW というラベルが付いています) の速度と二重化方式。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自動ネゴシエーション • 10 ハーフ : 10-BaseT/ 半二重 • 10 フル : 10-BaseT/ 全二重 • 100 ハーフ : 100-BaseT/ 半二重 • 100 フル : 100-BaseT/ 全二重 • 1000 フル : 1000-BaseT/ 全二重 <p>電話機がスイッチに接続されている場合は、スイッチ上のポートを電話機と同じ速度および二重化方式に設定するか、両方を自動ネゴシエーションに設定します。</p> <p>このオプションの設定値を変更する場合は、[PC ポート設定] オプションを同じ設定値に変更する必要があります。このように設定すると、ネットワーク動作速度を最大限に活用できます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. [ネットワークの設定] のオプションのロックを解除します。 2. [SW ポート設定] オプションまでスクロールし、[編集] ソフトキーを押します。 3. 目的の設定値までスクロールし、[選択] ソフトキーを押します。 4. [保存] ソフトキーを押します。
PC ポート設定	<p>アクセス ポート (10/100/1000 PC というラベルが付いています) の速度と二重化方式。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自動ネゴシエーション • 10 ハーフ : 10-BaseT/ 半二重 • 10 フル : 10-BaseT/ 全二重 • 100 ハーフ : 100-BaseT/ 半二重 • 100 フル : 100-BaseT/ 全二重 • 1000 フル : 1000-BaseT/ 全二重 <p>電話機がスイッチに接続されている場合は、スイッチ上のポートを電話機と同じ速度および二重化方式に設定するか、両方を自動ネゴシエーションに設定します。</p> <p>このオプションの設定値を変更する場合は、[SW ポート設定] オプションを同じ設定値に変更する必要があります。このように設定すると、ネットワーク動作速度を最大限に活用できます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. [ネットワークの設定] のオプションのロックを解除します。 2. [PC ポート設定] オプションまでスクロールし、[編集] ソフトキーを押します。 3. 目的の設定値までスクロールし、[選択] ソフトキーを押します。 4. [保存] ソフトキーを押します。

表 4-2 [ネットワークの設定] メニューのオプション (続き)

オプション	説明	変更の手順
PC VLAN	電話機が、ボイス VLAN をサポートしないサーブドパーティ製スイッチと相互動作できるようになります。このオプションを使用するには、あらかじめ [管理 VLAN ID] オプションを設定しておく必要があります。	<ol style="list-style-type: none"> 1. [ネットワークの設定] のオプションのロックを解除します。 2. [管理 VLAN ID] オプションが設定されていることを確認します。 3. [PC VLAN] オプションまでスクロールし、[編集] ソフトキーを押して、新しい PC VLAN 設定値を入力します。 4. [確認] ソフトキーを押し、[保存] ソフトキーを押します。
接続モニタ間隔	電話機と Cisco Unified Communications Manager サーバ間のリンクを (リンクフラッピングが発生しない) 安定した状態に保つためのフェールオーバーが発生してから、電話機が SRST から Cisco Unified Communications Manager サーバにフォールバックするまでの期間 (秒単位)。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して変更します。

関連項目

- [設定メニューの表示 \(P.4-2\)](#)
- [オプションのロック解除とロック \(P.4-3\)](#)
- [値の編集 \(P.4-4\)](#)
- [電話機から設定可能なオプションの概要 \(P.4-5\)](#)
- [デバイス設定メニュー \(P.4-12\)](#)

デバイス設定メニュー

[デバイス設定] メニューからは、11 個のサブメニューにアクセスできます。これらのメニューでは、電話機の設定ファイルで指定されているさまざまな設定値を確認できます。電話機は、設定ファイルを TFTP サーバからダウンロードします。サブメニューの内容は、次のとおりです。

- Unified CM の設定メニュー (P.4-12)
- SIP の設定メニュー (SIP 電話機のみ) (P.4-13)
- HTTP の設定メニュー (P.4-16)
- ロケールの設定メニュー (P.4-17)
- UI の設定メニュー (P.4-18)
- メディアの設定メニュー (P.4-19)
- 電力節約の設定メニュー (P.4-22)
- イーサネットの設定メニュー (P.4-23)
- セキュリティ設定メニュー (P.4-23)
- QoS の設定メニュー (P.4-24)
- ネットワークの設定 (P.4-25)

[デバイス設定] メニューおよびそのサブメニューにアクセスする方法については、P.4-2 の「設定メニューの表示」を参照してください。

Unified CM の設定メニュー

[Unified CM の設定] メニューには、次のオプションがあります。

- Unified CM 1
- Unified CM 2
- Unified CM 3
- Unified CM 4
- Unified CM 5

これらのオプションは、電話機から発信されたコールの処理に使用できる Cisco Unified Communications Manager サーバを優先順位順に示しています。これらのオプションを変更するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用します。



[Unified CM の設定] メニューのオプションには、使用可能な Cisco Unified Communications Manager サーバについて、Cisco Unified Communications Manager サーバの IP アドレスまたは名前、および表 4-3 に示すいずれかの状態が表示されます。

表 4-3 Cisco Unified Communications Manager サーバの状態

状態	説明
アクティブ	現在、この電話機に対してコール処理サービスを提供している Cisco Unified Communications Manager サーバです。
スタンバイ	現在のサーバが使用不能になった場合に、この電話機が切り替え先とする Cisco Unified Communications Manager サーバです。
ブランク	現在、この Cisco Unified Communications Manager サーバへの接続はありません。

オプションには、表 4-4 に示す指定またはアイコンが 1 つ以上表示されることもあります。

表 4-4 Cisco Unified Communications Manager サーバに関する表示

表示	説明
SRST	<p>限定された機能セットで Cisco Unified Communications Manager 機能を提供する能力のある Survivable Remote Site Telephony ルータを示します。このルータは、他のすべての Cisco Unified Communications Manager サーバが到達不能になった場合に、コールの処理を引き継ぎます。SRST Cisco Unified Communications Manager は、アクティブであっても、常にサーバのリストの最後尾に表示されます。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。</p>
TFTP	<p>電話機が、設定ファイルにリストされた Cisco Unified Communications Manager で登録できず、代わりに TFTP サーバで登録されたことを示します。</p>
 (認証アイコン)	<p>Cisco Unified Communications Manager への接続が認証済みであることを示します。認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。</p>
 (暗号化アイコン)	<p>Cisco Unified Communications Manager への接続が認証済みで、暗号化済みであることを示します。認証および暗号化の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。</p>

SIP の設定メニュー（SIP 電話機のみ）

[SIP の設定] メニューは、SIP 電話機で使用できます。このメニューには、次のサブメニューがあります。

- SIP の全般的な設定メニュー (P.4-13)
- 回線の設定メニュー (P.4-15)

SIP の全般的な設定メニュー

[SIP の全般的な設定] メニューは、SIP 電話機で設定可能な SIP パラメータに関する情報を表示します。表 4-5 に、このメニューのオプションの説明を示します。

表 4-5 [SIP の全般的な設定] メニューのオプション

オプション	説明	変更の手順
優先する Codec	<p>コールの開始時に使用するコーデックを表示します。この値は、常に none に設定されます。</p>	表示のみ (変更不可)。
アウトオブバンド DTMF	<p>(ゲートウェイの IP 側でのトーン検出のための)アウトオブバンド シグナリングの設定を表示します。Cisco Unified IP Phone (SIP) は、AVT トーン方式を使用したアウトオブバンド シグナリングをサポートしています。この値は、常に avt に設定されます。</p>	表示のみ (変更不可)。
プロキシで登録	<p>初期化中に、電話機をプロキシ サーバを使用して登録する必要があるかどうかを表示します。この値は、常に true に設定されます。</p>	表示のみ (変更不可)。

表 4-5 [SIP の全般的な設定] メニューのオプション (続き)

オプション	説明	変更の手順
登録期限切れ	登録要求が期限切れになるまでの期間の長さを秒単位で表示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [デバイスの設定] > [SIPプロファイル] を選択します。
電話ラベル	電話機の LCD の右上にあるステータス行に表示されるテキストを表示します。このテキストはエンドユーザに表示されるだけで、発信者の識別およびメッセージには影響しません。この値は、常に null に設定されます。	表示のみ (変更不可)。
VAD の有効化	Voice Activity Detection (VAD; 音声アクティビティ検出) が有効かどうかを表示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [デバイスの設定] > [SIPプロファイル] を選択します。
開始メディア ポート	メディアのリアルタイム転送プロトコル (RTP) 開始範囲を表示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [デバイスの設定] > [SIPプロファイル] を選択します。
終了メディア ポート	メディアのリアルタイム転送プロトコル (RTP) 終了範囲を表示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [デバイスの設定] > [SIPプロファイル] を選択します。
バックアップ プロキシ	バックアッププロキシサーバまたはゲートウェイの IP アドレスを表示します。この値は、常に USECommunication Manager に設定されます。	表示のみ (変更不可)。
バックアップ プロキシポート	バックアッププロキシサーバまたはゲートウェイのポート番号を表示します。この値は、常に 5060 に設定されます。	表示のみ (変更不可)。
緊急プロキシ	緊急プロキシサーバまたはゲートウェイの IP アドレスを表示します。この値は、常に USECommunication Manager に設定されます。	表示のみ (変更不可)。
緊急プロキシポート	緊急プロキシサーバまたはゲートウェイのポート番号を表示します。この値は、常に 5060 に設定されます。	表示のみ (変更不可)。
発信プロキシ	発信プロキシサーバの IP アドレスを表示します。この値は、常に USECommunication Manager に設定されます。	表示のみ (変更不可)。
発信プロキシポート	発信プロキシサーバのポート番号を表示します。この値は、常に 5060 に設定されます。	表示のみ (変更不可)。
NAT 有効	ネットワーク アドレス変換 (NAT) が有効かどうかを表示します。この値は、常に false に設定されます。	表示のみ (変更不可)。
NAT アドレス	NAT またはファイアウォールサーバの WAN IP アドレスを表示します。この値は、常に null に設定されます。	表示のみ (変更不可)。
コールの統計	電話機のコール統計情報が有効かどうかを表示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [デバイスの設定] > [SIPプロファイル] を選択します。

関連項目

- [設定メニューの表示 \(P.4-2\)](#)
- [デバイス設定メニュー \(P.4-12\)](#)

回線の設定メニュー

【回線の設定】メニューは、SIP 電話機の各回線に対して設定可能なパラメータに関する情報を表示します。表 4-6 に、このメニューのオプションの説明を示します。

表 4-6 【回線の設定】メニューのオプション

オプション	説明	変更の手順
名前	登録時に回線が使用する名前を表示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して変更します。
ショート名	回線に対して設定されているショート名を表示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して変更します。
認証名	初期化中にコール制御サーバによって登録が確認される場合に、電話機が認証に使用する名前を表示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して変更します。
表示名	発信者の識別のために、電話機が表示に使用する ID を表示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して変更します。
プロキシアドレス	電話機が使用するプロキシサーバの IP アドレスを表示します。この値は、常に USECommunication Manager に設定されます。	表示のみ（変更不可）。
プロキシポート	電話機が使用するプロキシサーバのポート番号を表示します。この値は、常に 5060 に設定されます。	表示のみ（変更不可）。
シェアドライン	回線がシェアドラインの一部であるかどうか（[Yes] または [No]）を表示します。	表示のみ（変更不可）。

関連項目

- [設定メニューの表示 \(P.4-2\)](#)
- [デバイス設定メニュー \(P.4-12\)](#)

コールの設定メニュー

【コールの設定】メニューは、SIP 電話機のコールの設定に関する設定値を表示します。表 4-7 に、このメニューのオプションの説明を示します。

表 4-7 【コールの設定】メニューのオプション

オプション	説明	変更の手順
発信者 ID ブロック	電話機の発信者 ID ブロックが有効（[Yes]）か無効（[No]）かを示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス]>[デバイスの設定]>[SIP プロファイル] を選択します。
匿名コールブロック	電話機の匿名コールブロックが有効（[Yes]）か無効（[No]）かを示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス]>[デバイスの設定]>[SIP プロファイル] を選択します。
コール待機の設定	各回線のコール待機が有効（[Yes]）か無効（[No]）かを示すサブメニューを表示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング]>[電話番号] を選択します。
コール保留時の呼出音	電話機のコール保留時の呼出音機能が有効（[Yes]）か無効（[No]）かを示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス]>[デバイスの設定]>[SIP プロファイル] を選択します。

表 4-7 [コールの設定] メニューのオプション (続き)

オプション	説明	変更の手順
スタッター メッセージ待機	電話機のスタッターメッセージ待機が有効 ([Yes]) か無効 ([No]) かを示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス]>[デバイスの設定]>[SIP プロファイル] を選択します。
コール ログ BLF 有効	電話機のコール ログの BLF が有効 ([Yes]) か無効 ([No]) かを示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用します。
自動応答の設定	各回線の自動応答が有効 ([Yes]) か無効 ([No]) かを示すサブメニューを表示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング]>[電話番号] を選択します。
短縮ダイヤル	電話機の使用可能な回線を表示するサブメニューを表示します。回線を選択すると、その回線に割り当てられている短縮ダイヤル ラベルと番号が表示されます。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス]>[電話]>[新規 SD を追加] または [デバイス]>[電話]>[短縮ダイヤルの追加/更新] を選択します。

関連項目

- [設定メニューの表示 \(P.4-2\)](#)
- [デバイス設定メニュー \(P.4-12\)](#)

HTTP の設定メニュー

[HTTP の設定] メニューには、電話機にとって各種の情報の取得元となるサーバの URL が表示されます。このメニューには、電話機のアイドル表示に関する情報も表示されます。

表 4-8 に、[HTTP の設定] メニューのオプションの説明を示します。

表 4-8 [HTTP の設定] メニューのオプション

オプション	説明	変更の手順
ディレクトリ URL	電話機でディレクトリ情報の取得元となるサーバの URL。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス]>[電話]>[電話の設定] を選択します。
サービス URL	電話機が Cisco Unified IP Phone サービスを取得するサーバの URL。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス]>[電話]>[電話の設定] を選択します。
メッセージ URL	電話機でメッセージサービスの取得元となるサーバの URL。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス]>[電話]>[電話の設定] を選択します。
情報 URL	電話機に表示されるヘルプ テキストの URL。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス]>[電話]>[電話の設定] を選択します。
認証 URL	電話機の Web サーバに発行された要求を検証するために、電話機が使用する URL。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス]>[電話]>[電話の設定] を選択します。
プロキシサーバの URL	電話機の HTTP クライアントの代わりにローカル以外のホスト アドレスに HTTP 要求を送信し、ローカル以外のホストから電話機の HTTP クライアントへの応答を提供するプロキシサーバの URL。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス]>[電話]>[電話の設定] を選択します。

表 4-8 [HTTP の設定] メニューのオプション (続き)

オプション	説明	変更の手順
アイドル URL	電話機が使用されないまま、[URL のアイドル時間] オプションに指定した期間が経過し、メニューも開かれていないときに、電話機が表示する XML サービスの URL。[アイドル URL] オプションと [URL のアイドル時間] オプションを使用すると、たとえば電話機が 5 分間使用されていない場合に、LCD スクリーンに株式相場やカレンダーを表示できます。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
URL のアイドル時間	電話機が使用されておらず、メニューも開かれていない場合に、[アイドル URL] オプションで指定した XML サービスをアクティブにするまでの秒数。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。

ロケールの設定メニュー

[ロケールの設定] メニューは、電話機で使用されるユーザ ロケールとネットワーク ロケールの情報を表示します。表 4-9 に、このメニューのオプションの説明を示します。

表 4-9 [ロケールの設定] メニューのオプション

オプション	説明	変更の手順
ユーザ ロケール	電話機のユーザに関連付けられているユーザ ロケール。ユーザ ロケールは、言語、フォント、日付と時刻の書式、英数字キーボードのテキスト情報など、ユーザをサポートするための一連の詳細情報を指定したものです。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
ユーザ ロケールバージョン	電話機にロードされたユーザ ロケールのバージョン。	表示のみ (変更不可)。
ユーザ ロケール文字セット	電話機がユーザ ロケールに使用する文字セット。	表示のみ (変更不可)。
ネットワーク ロケール	電話機のユーザに関連付けられたネットワーク ロケール。ネットワーク ロケールは、電話機で 사용되는トーンやリズムの定義など、特定の場所にある電話機をサポートするための詳細情報を指定したものです。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
ネットワーク ロケールバージョン	電話機にロードされたネットワーク ロケールのバージョン。	表示のみ (変更不可)。
NTP の設定 (SIP 電話機のみ)	[NTP の設定] メニューにアクセスできます。詳細については、P.4-18 の「NTP の設定メニュー (SIP 電話機のみ)」を参照してください。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[システム] > [電話用 NTP] を選択します。

■ デバイス設定メニュー

NTP の設定メニュー（SIP 電話機のみ）

[NTP の設定] メニューは、SIP 電話機で使用される NTP サーバとモード設定の情報を表示します。
表 4-10 に、このメニューのオプションの説明を示します。

表 4-10 [NTP の設定] メニューのオプション

オプション	説明	変更の手順
NTP サーバ 1	プライマリ NTP サーバの IP アドレス。	表示のみ（変更不可）。
NTP サーバ 2	セカンダリ（バックアップ） NTP サーバの IP アドレス。	表示のみ（変更不可）。
NTP モード 1	プライマリ サーバのモード。サポートされているモードは、 [ダイレクトブロードキャスト]、[ユニキャスト]、[マルチキャスト]、および [エニーキャスト] です。	表示のみ（変更不可）。
NTP モード 2	セカンダリ サーバのモード。サポートされているモードは、 [ダイレクトブロードキャスト]、[ユニキャスト]、[マルチキャスト]、および [エニーキャスト] です。	表示のみ（変更不可）。


UI の設定メニュー

[UI の設定] メニューは、電話機のさまざまなユーザ インターフェイス機能のステータスを表示します。
表 4-11 に、このメニューのオプションの説明を示します。

表 4-11 [UI の設定] メニューのオプション

オプション	説明	変更の手順
自動回線選択	電話機が、すべての回線上でコール フォーカスを着信コールに移動するかどうかを指定します。 このオプションを無効にした場合、電話機は、使用中の回線上の着信コールにのみコール フォーカスを移動します。 このオプションを有効にすると、電話機は直近の着信コールがあった回線にコール フォーカスを移動します。 デフォルト：無効	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
コール リストの BLF	コール リストのビジー ランプ フィールド (BLF) が有効になっているかどうかを示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[システム] > [エンタープライズパラメータ] を選択します。
復帰フォーカス優先度	電話機が電話スクリーン上でコール フォーカスを着信コールに移動するか、保留復帰コールに移動するかを示します。 設定値には次のものがあります。 低く：着信コールにフォーカス優先度が設定されます。 高く：復帰コールにフォーカス優先度が設定されます。 均一：最初のコールにフォーカス優先度が設定されます。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[システム] > [デバイスプール] を選択します。

表 4-11 [UI の設定] メニューのオプション (続き)

オプション	説明	変更の手順
自動コール選択	<p>ユーザが通話中に同じ回線の着信コールにコール フォーカスを自動的に移動するかどうかを示します。</p> <p>このオプションを有効にすると、電話機は直近の着信コールにコール フォーカスを移動します。</p> <p>このオプションを無効にすると、[自動回線選択] を含む自動フォーカスの変更内容すべてがその設定に関係なく無効になります。</p> <p>デフォルト：有効</p>	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
[次へ] ソフトキータイマー	<p>ユーザが [次へ] を押したときに表示される別のソフトキーの表示期間を秒単位で示します。ユーザが別のソフトキーを押すことなく、このタイマーが期限切れになった場合、表示は最初のソフトキーに戻ります。</p> <p>範囲：5 ~ 30 (0 は無期限を表す)</p> <p>デフォルト：5</p>	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
ワイドバンドヘッドセット UI 設定	<p>ユーザが電話機のユーザ インターフェイスで [ワイドバンドヘッドセット] オプションを設定できるかどうかを示します。</p> <p>値：</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効：ユーザは電話機の [オーディオ設定] メニューにある [ワイドバンドヘッドセット] オプションを設定できます ( > [ユーザ設定] > [オーディオ設定] > [ワイドバンドヘッドセット] を選択します)。 無効：Cisco Unified Communications Manager の管理ページにある [Wideband Headset] オプションの値が使用されます (P.4-19 の「メディアの設定メニュー」を参照)。 <p>デフォルト：有効</p>	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
パーソナライゼーション	<p>ユーザが呼出音や壁紙イメージを設定できるかどうかを示します。</p> <p>デフォルト：有効</p>	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。

メディアの設定メニュー

[メディアの設定] メニューは、ヘッドセット、スピーカフォン、およびビデオ機能が電話機で有効になっているかどうかを表示します。また、このメニューは、コールが録音される場合があることを示すために再生できる録音トーンのオプションも表示します。表 4-12 に、このメニューのオプションの説明を示します。




表 4-12 [メディアの設定] メニューのオプション

オプション	説明	変更の手順
ヘッドセットを使う	電話機のヘッドセット ボタンが有効になっているかどうかを示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。

表 4-12 [メディアの設定] メニューのオプション (続き)

オプション	説明	変更の手順
スピーカを使う	電話機のスピーカフォンが有効になっているかどうかを示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
ビデオ機能を使う	必要な装置を備えたコンピュータに接続されている場合に、電話機がビデオ コールに参加できるかどうかを示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
録音トーン	<p>録音トーン（ビープ音と呼ばれることもある）が電話機で有効か無効かを示します。[録音トーン] オプションが有効の場合、電話機はすべてのコールについて双方向でビープ音を再生します。この場合、そのコールが実際に録音されるかどうかは関係ありません。ビープ音が最初に鳴るのは、コールの応答時です。</p> <p>このオプションを有効にする場合は、ユーザへの通知が必要になることがあります。</p> <p>デフォルト：無効</p> <p>関連パラメータ：</p> <ul style="list-style-type: none"> 録音トーンのローカル音量 録音トーンのリモート音量 録音トーンの長さ <p>その他の関連パラメータ（ビープ音の周波数（Hz 単位）、ビープ音の長さ（期間と呼ぶ）、およびビープ音の再生頻度（間隔と呼ぶ）は、トーンを定義する xml ファイルでネットワーク ロケールごとに定義されます。通常、この xml ファイルの名前は tones.xml または g3-tones.xml です。</p>	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
録音トーンのローカル音量	<p>[録音トーン] オプションが有効になっている電話機の通話者が受信するビープ音の音量設定を示します。</p> <p>この設定は、音声を聞く各デバイス（ハンドセット、スピーカフォン、ヘッドセット）に適用されます。</p> <p>範囲：0%（トーンなし）～ 100%（電話機での現在の設定と同じレベル）</p> <p>デフォルト：100</p> <p>「録音トーン」も参照してください。</p>	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。

表 4-12 [メディアの設定] メニューのオプション (続き)

オプション	説明	変更の手順
録音トーンのリモート音量	<p>リモートの通話相手が受信するビープ音の音量設定を示します。リモートの通話相手とは、[録音トーン] オプションが有効になっている電話機の通話者と通話している相手のことです。</p> <p>範囲：0% ~ 100% (0% は -66 dBm、100% は -3 dBm)</p> <p>デフォルト：84% (-10dBm)</p> <p>「録音トーン」も参照してください。</p>	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
録音トーンの長さ	<p>ビープ音の再生期間をミリ秒単位で示します。</p> <p>ここで設定した値が間隔の 1/3 に満たない場合、この値はネットワーク ロケールで指定されているデフォルトで上書きされます。</p> <p>範囲：0 ~ 3000</p> <p> (注) 複雑な断続周期を使用するネットワーク ロケールでは、この設定は最初のビープ音のみ適用されます。</p> <p>「録音トーン」も参照してください。</p>	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
ワイドバンドヘッドセット	<p>ヘッドセットでワイドバンドが有効か無効かを示します。</p> <p>デフォルト：無効</p>	<p>[ワイドバンドヘッドセット UI 設定] が有効の場合は、電話機を使用して、 > [ユーザ設定] > [オーディオ設定] > [ワイドバンドヘッドセット] を選択できます。</p> <p>[ワイドバンドヘッドセット UI 設定] が無効の場合は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択し、この値を設定します。</p> <p>このオプションを ([ワイドバンドヘッドセット UI 設定] オプションで) ユーザが制御できるようにしている場合は、ユーザが設定した値が優先されます。</p>
エンタープライズアドバタイズ G.722 コーデック	<p>Cisco Unified IP Phone が Cisco Unified Communications Manager に対して G.722 コーデックをアドバタイズすることを有効または無効にします。有効 (デフォルト) になっていて、コールの際に各エンドポイントの機能セットで G.722 がサポートされている場合、Cisco Unified Communications Manager はコールに G.722 を選択します。</p> <p> (注) この設定をサポートしない Cisco Unified Communications Manager に電話機が登録された場合、デフォルトは「無効」になります。</p>	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[システム] > [エンタープライズパラメータ] を選択します。

■ デバイス設定メニュー

表 4-12 「メディアの設定」メニューのオプション (続き)

オプション	説明	変更の手順
デバイスアダプタイズ G.722 コーデック	エンタープライズアダプタイズ G.722 コーデックを電話機ごとに無効にすることができます。 デフォルトは「システムデフォルトの使用」です。これは、エンタープライズアダプタイズ G.722 コーデックのパラメータの設定値が使用されることを意味します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] を選択します。

電力節約の設定メニュー

「電力節約の設定」メニューは、電話機の LCD スクリーンをいつオフにして節電するかを制御する設定値を表示します。表 4-13 に、このメニューのオプションの説明を示します。

これらの設定値を設定する方法の詳細については、P.6-9 の「Cisco Unified IP Phone のタッチスクリーンの自動無効化」を参照してください。

表 4-13 「電力節約の設定」メニューのオプション

オプション	説明	変更の手順
ディスプレイ オンの時間	毎日、LCD スクリーンを自動的にオンにする時刻（「ディスプレイ非アクティブ日」フィールドで指定した曜日を除く）。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
ディスプレイ連続表示時間	「ディスプレイ オンの時間」オプションに示されている時刻に LCD スクリーンをオンにした後で、オンのままにしておく時間の長さ。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
アイドルタイムアウトの表示	電話機がアイドル状態になってから、ディスプレイをオフにするまでの時間の長さ。適用されるのは、ディスプレイがスケジュールに従ってオフになり、エンドユーザが（電話機のボタンを押すか、タッチスクリーンに触るか、ハンドセットを持ち上げて）オンにした場合のみです。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
ディスプレイ非アクティブ日	「ディスプレイ オンの時間」オプションで指定した時刻に、ディスプレイを自動的にオンにしない曜日。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
着信コール時に表示	コールを受信したときに LCD スクリーンを自動的にオンにするかどうかを示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。

イーサネットの設定メニュー

[イーサネットの設定] メニューには、表 4-14 に示されているオプションがあります。

表 4-14 [イーサネットの設定] メニューのオプション

オプション	説明	変更の手順
PC ポートへのスパン	電話機が、ネットワーク ポートで送信および受信したパケットを、アクセス ポートへ転送するかどうかを示します。 このオプションを有効にするのは、アクセス ポート上で、電話機のトラフィックをモニタする必要があるアプリケーションが実行されている場合です。このようなアプリケーションには、(コール センター環境でよく利用される) モニタリング アプリケーションや記録アプリケーション、診断に使用されるネットワーク パケット キャプチャ ツールがあります。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
転送の遅延	電話機がアクティブになったときに、内蔵スイッチが電話機の PC ポートとスイッチ ポート間でパケット転送を開始するかどうかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> [転送の遅延] を無効に設定すると、内蔵スイッチはすぐにパケットの転送を開始します。 [転送の遅延] を有効に設定すると、内蔵スイッチは 8 秒間待機してから PC ポートとスイッチ ポート間でパケットを転送します。 デフォルトは無効です。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。

セキュリティ設定メニュー

[デバイス設定] メニューから表示する [セキュリティ設定] メニューは、電話機のセキュリティに関連する設定値を表示します。




(注)

電話機には、[設定] メニューから直接アクセスする [セキュリティ設定] メニューも用意されています。このメニューにあるセキュリティ オプションについては、P.4-29 の「[セキュリティ設定メニュー](#)」を参照してください。

表 4-15 に、[セキュリティ設定] メニューのオプションの説明を示します。

表 4-15 [セキュリティ設定] メニューのオプション

オプション	説明	変更の手順
PC ポートが無効にする	電話機のアクセス ポートが有効になっているか無効になっているかを示します。  (注) 無効な場合は、ビデオが有効であっても、この電話機ではビデオは機能しません。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。

■ デバイス設定メニュー

表 4-15 [セキュリティ設定] メニューのオプション (続き)

オプション	説明	変更の手順
GARP を使う	電話機が Gratuitous Address Resolution Protocol (ARP) 応答から MAC アドレスを取得するかどうかを示します。電話機の Gratuitous ARP を受け入れる機能を無効にした場合、このメカニズムを使用して音声ストリームをモニタおよび記録するアプリケーションが機能しなくなります。音声のモニタが必要ない場合は、このオプションを [No] (無効) に設定します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
ボイス VLAN を使う	アクセスポートに接続されているデバイスがボイス VLAN にアクセスすることを、電話機で許可するかどうかを示します。このオプションを [No] (無効) に設定すると、接続されている PC はボイス VLAN 上でデータを送受信できなくなります。また、電話機で送受信されるデータを PC が受信できなくなります。PC 上で、電話機のトラフィックをモニタする必要があるアプリケーションが実行されている場合は、この設定値を [Yes] (有効) に設定してください。このようなアプリケーションには、モニタリングアプリケーションや記録アプリケーション、ネットワーク モニタリング ソフトウェアがあります。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
Web アクセス可能	電話機の Web アクセスが有効 ([Yes]) か無効 ([No]) かを示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
セキュリティ モード	電話機に設定されているセキュリティ モードを表示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して変更します。
ログ表示	必要に応じて、Cisco Technical Assistance Center (TAC) が使用します。	

QoS の設定メニュー

[QoS の設定] メニューは、電話機の QoS (Quality Of Service) に関する情報を表示します。表 4-16 に、このメニューのオプションの説明を示します。

表 4-16 [QoS の設定] メニューのオプション

オプション	説明	変更の手順
通話制御の DSCP	コール制御シグナリングの Differentiated Services Code Point (DSCP) IP 分類。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[システム] > [エンタープライズパラメータ] を選択します。
設定の DSCP	電話機の設定転送の DSCP IP 分類。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[システム] > [エンタープライズパラメータ] を選択します。
サービスの DSCP	電話機ベースのサービスの DSCP IP 分類。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[システム] > [エンタープライズパラメータ] を選択します。

関連項目

- 設定メニューの表示 (P.4-2)
- ネットワークの設定メニュー (P.4-6)

ネットワークの設定

[ネットワークの設定] メニューは、電話機のデバイス固有のネットワーク設定値を表示します。表 4-17 に、このメニューのオプションの説明を示します。



(注)

電話機には、[設定] メニューから直接アクセスする [ネットワークの設定] メニューも用意されています。このメニューのオプションについては、P.4-6 の「ネットワークの設定メニュー」を参照してください。

表 4-17 [ネットワークの設定] メニューのオプション


オプション	説明	変更の手順
ロードサーバ	<p>このオプションを使用すると、電話機ファームウェアをアップグレードする場合のインストール時間が最適化されます。さらに、イメージをローカルに格納することで、各電話機がアップグレードするたびに WAN リンクを通過する必要がなくなるため、WAN の負荷が軽減されます。</p> <p>[ロードサーバ] を ([TFTP サーバ 1] や [TFTP サーバ 2] ではなく) 別の TFTP サーバの IP アドレスまたは名前に設定すると、そのサーバから電話機のアップグレード用の電話機ファームウェアを取得できます。[ロードサーバ] オプションを設定すると、電話機は、ファームウェアアップグレードを取得する場合は指定されたサーバにアクセスします。</p> <p> (注) [ロードサーバ] オプションで指定できるのは、電話機のアップグレード用の代替 TFTP サーバだけです。電話機は、設定ファイルを取得するときには、引き続き [TFTP サーバ 1] または [TFTP サーバ 2] を使用します。[ロードサーバ] オプションでは、プロセス管理やファイル管理 (ファイルの転送、圧縮、削除など) は行われません。</p>	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
RTP 制御プロトコル	<p>電話機が Real Time Control Protocol (RTCP) をサポートしているかどうかを示します。設定値には次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効 無効 (デフォルト) <p>この機能が無効の場合、一部のコール統計情報の値が 0 として表示されます。詳細については、次の各項を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> コールの統計画面 (P.7-12) ストリームの統計 (P.8-12) 	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。

表 4-17 [ネットワークの設定] メニューのオプション (続き)




オプション	説明	変更の手順
CDP : PC ポート	<p>PC ポートで CDP がサポートされているかどうかを示します (デフォルトでは有効)。</p> <p>PC ポートに Cisco VT Advantage/Unified Video Advantage (CVTA) を接続した場合は、PC ポートで CDP を有効にします。CVTA が動作するには、CDP と電話機の連携が必要です。</p> <p> (注) CDP が Cisco Unified Communications Manager で無効になっているときは、PC ポートで CDP を無効にすると、CVTA が動作しなくなることを示す警告が表示されます。</p> <p> (注) PC ポートとスイッチ ポートの CDP に関する現在の値は、[設定] メニューに表示されます。</p>	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] を選択します。
CDP : SW ポート	<p>スイッチ ポートで CDP がサポートされているかどうかを示します (デフォルトでは有効)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 電話機、電力ネゴシエーション、QoS 管理、および 802.1x セキュリティに VLAN を割り当てる場合は、スイッチ ポートで CDP を有効にします。 電話機をシスコ スイッチに接続した場合は、スイッチ ポートで CDP を有効にします。 <p> (注) CDP が Cisco Unified Communications Manager で無効になっているときは、電話機をシスコ以外のスイッチに接続した場合に限り、スイッチ ポートで CDP を無効にする必要があることを示す警告が表示されます。</p> <p> (注) PC ポートとスイッチ ポートの CDP に関する現在の値は、[設定] メニューに表示されます。</p>	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] を選択します。

表 4-17 [ネットワークの設定] メニューのオプション (続き)


オプション	説明	変更の手順
ピア ファームウェア共有	<p>ピア ファームウェア共有機能を使用すると、高速キャンパス LAN 設定において次の利点が得られます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央集中型 TFTP サーバへの TFTP 転送における輻輳が制限されます。 ファームウェアのアップグレードを手動で制御する必要がなくなります。 アップグレード時に多数のデバイスが同時にリセットされた場合の電話機のダウンタイムが削減されます。 <p>ほとんどの場合、ピア ファームウェア共有を使用すると、帯域幅が制限された WAN リンクを経由するブランチ展開シナリオではファームウェアのアップグレードが最適化されます。</p> <p>この機能が有効の場合、電話機は、ファームウェアイメージを構成するファイルを要求しているサブネット上の同じ電話機を検出することや、転送階層をファイル単位で自動的に構築することができます。ファームウェアイメージを構成する個々のファイルは、階層内のルートの電話機のみによって TFTP サーバから取得され、TCP 接続を介して転送階層に沿ってサブネット上の他の電話機に迅速に転送されます。</p> <p>このメニュー オプションは、電話機がピア ファームウェア共有をサポートしているかどうかを示します。設定値には次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効 無効 (デフォルト) 	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
ログ サーバ	<p>電話機がログ メッセージを送信するリモートのロギング用マシンの IP アドレスとポートを示します。このログメッセージは、ピア ファームウェア共有機能のデバッグに役立ちます。</p> <p></p> <p>(注) リモート ロギングの設定は、電話機のログに送信される共有ログ メッセージには影響しません。</p>	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
LLDP: PC ポート	<p>PC ポートで Link Layer Discovery Protocol (LLDP) を有効または無効にします。この設定を使用すると、電話機で特定の検出プロトコルを強制的に使用することができます。このプロトコルは、スイッチでサポートされているプロトコルと一致する必要があります。設定値には次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効 (デフォルト) 無効 	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。

表 4-17 [ネットワークの設定] メニューのオプション (続き)

オプション	説明	変更の手順
LLDP-MED : SW ポート	<p>スイッチポートで Link Layer Discovery Protocol Media Endpoint Discovery (LLDP-MED) を有効または無効にします。この設定を使用すると、電話機で特定の検出プロトコルを強制的に使用することができます。このプロトコルは、スイッチでサポートされているプロトコルと一致する必要があります。設定値には次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効 (デフォルト) 無効 	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
LLDP 電源優先度	<p>電話機の電源優先度をスイッチにアダプタイズして、スイッチが電話機に電力を適切に供給できるようにします。設定値には次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 不明 (デフォルト) 低い 高い 重要 	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
LLDP アセット ID	<p>インベントリ管理用に電話機に割り当てられたアセット ID を示します。</p>	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。

関連項目

- [設定メニューの表示 \(P.4-2\)](#)
- [ネットワークの設定メニュー \(P.4-6\)](#)

セキュリティ設定メニュー

[設定] メニューから直接アクセスする [セキュリティ設定] メニューは、さまざまなセキュリティ設定に関する情報を表示します。また、電話機に CTL ファイルがインストールされている場合は、このメニューから [CTL ファイル] メニューと [信頼リスト] メニューにアクセスできます。

[セキュリティ設定] メニューおよびそのサブメニューにアクセスする方法については、P.4-2 の「設定メニューの表示」を参照してください。



(注)

電話機には、[デバイス] メニューからアクセスする [セキュリティ設定] メニューも用意されています。このメニューにあるセキュリティオプションについては、P.4-23 の「セキュリティ設定メニュー」を参照してください。

表 4-18 に、[セキュリティ設定] メニューのオプションの説明を示します。

表 4-18 [セキュリティ設定] メニューの設定

オプション	説明	変更の手順
Web アクセス可能	電話機の Web アクセスが有効 ([Yes]) か無効 ([No]) かを示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
セキュリティ モード	電話機に設定されているセキュリティ モードを表示します。	Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス] > [電話] > [電話の設定] を選択します。
MIC	MIC (セキュリティ機能に使用) が電話機にインストールされている ([Yes]) か、インストールされていない ([No]) かを示します。	電話機の MIC を管理する方法については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』の「Certificate Authority Proxy Function の使用方法」の章を参照してください。
LSC	LSC (セキュリティ機能に使用) が電話機にインストールされている ([Yes]) か、インストールされていない ([No]) かを示します。	電話機の LSC を管理する方法については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』の「Certificate Authority Proxy Function の使用方法」の章を参照してください。
CTL ファイル	電話機にインストールされている CTL ファイルの MD5 ハッシュを表示します。電話機に CTL ファイルがインストールされていない場合、このフィールドには [No] と表示されず (電話機にセキュリティが設定されていると、電話機をリブートまたはリセットしたときに自動的に CTL ファイルがインストールされます)。	このファイルの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』の「Cisco CTL クライアントの設定」の章を参照してください。 電話機に CTL ファイルがインストールされている場合は、[CTL ファイル] 画面にもアクセスできます。詳細については、P.4-30 の「CTL ファイルメニュー」を参照してください。
信頼リスト	電話機に CTL ファイルがインストールされている場合は、[信頼リスト] メニューにアクセスできます。	詳細については、P.4-31 の「信頼リストメニュー」を参照してください。
CAPF サーバ	電話機が使用している CAPF の IP アドレスとポートを表示します。	このサーバの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』の「Certificate Authority Proxy Function の使用方法」の章を参照してください。

表 4-18 [セキュリティ設定] メニューの設定 (続き)




オプション	説明	変更の手順
802.1X 認証	この電話機で 802.1X 認証を有効にすることができます。	P.4-32 の「802.1X 認証およびステータス」を参照してください。
802.1X 認証ステータス	802.1X 認証トランザクションのステータスのリアルタイム進捗状況を表示します。	表示のみ (変更不可)。

CTL ファイル メニュー

[CTL ファイル] 画面には、表 4-19 に示されているオプションがあります。

電話機に CTL ファイルがインストールされている場合に、[CTL ファイル] メニューにアクセスするには、設定ボタンを押して、[セキュリティ設定] > [CTL ファイル] を選択します。

表 4-19 [CTL ファイル] メニューの設定

オプション	説明	変更の手順
CTL ファイル	電話機にインストールされている CTL ファイルの MD5 ハッシュを表示します。電話機にセキュリティが設定されている場合、電話機をリポートまたはリセットすると、CTL ファイルが自動的にインストールされます。 <ul style="list-style-type: none"> このオプションでロックされた鍵のアイコン  は、CTL ファイルがロックされていることを示します。 ロック解除された鍵のアイコン  は、CTL ファイルがロック解除されていることを示します。 	CTL ファイルの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』の「Cisco CTL クライアントの設定」の章を参照してください。
CAPF サーバ	電話機が使用している CAPF サーバの IP アドレス。このサーバに証明書がインストールされている場合は、証明書アイコンも表示されます。	このサーバの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』の「Certificate Authority Proxy Function の使用方法」の章を参照してください。
Unified CM / TFTP サーバ	電話機が使用している Cisco Unified Communications Manager および TFTP サーバの IP アドレス。このサーバに証明書がインストールされている場合は、証明書アイコン  も表示されます。 <p>CTL ファイルにプライマリ TFTP サーバ (TFTP サーバ 1) もバックアップ TFTP サーバ (TFTP サーバ 2) もリストされていない場合は、[ネットワークの設定] メニューの [TFTP サーバ 1] オプションまたは [TFTP サーバ 2] オプションへの変更を保存する前に、CTL ファイルをロック解除する必要があります。</p>	これらのオプションを変更する方法については、P.4-6 の「ネットワークの設定メニュー」を参照してください。

CTL ファイルのロック解除

[セキュリティ設定] メニューから CTL ファイルをロック解除するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 *** を押して、[CTL ファイル] メニューにあるオプションのロックを解除します。

作業を中断する場合は、再度 *** を押して、このメニューのオプションをロックします。

ステップ 2 [CTL ファイル] オプションを強調表示します。

ステップ 3 [解除] ソフトキーを押して、CTL ファイルをロック解除します。

[TFTP サーバ 1] オプションまたは [TFTP サーバ 2] オプションを変更して保存すると、CTL ファイルは自動的にロックされます。



(注) [解除] ソフトキーは、押すと [ロック] に変わります。[TFTP サーバ 1] オプションまたは [TFTP サーバ 2] オプションを変更しない場合は、[ロック] ソフトキーを押して、CTL ファイルをロックします。

信頼リスト メニュー

[信頼リスト] メニューには、電話機が信頼しているすべてのサーバに関する情報が表示されます。また、表 4-20 に示されているオプションがあります。

電話機に CTL ファイルがインストールされている場合に、[信頼リスト] メニューにアクセスするには、設定ボタンを押して、[セキュリティ設定] > [信頼リスト] を選択します。

表 4-20 [信頼リスト] メニューの設定

オプション	説明	変更の手順
CAPF サーバ	電話機が使用している CAPF の IP アドレス。このサーバに証明書がインストールされている場合は、証明書アイコン  も表示されます。	これらの設定値の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』の「Cisco CTL クライアントの設定」の章を参照してください。
Unified CM / TFTP サーバ	電話機が使用している Cisco Unified Communications Manager および TFTP サーバの IP アドレス。このサーバに証明書がインストールされている場合は、証明書アイコン  も表示されます。	これらの設定値の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』の「Cisco CTL クライアントの設定」の章を参照してください。
SRST ルータ	電話機で使用できる信頼された SRST ルータの IP アドレス（該当するデバイスが Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定されている場合）。このサーバに証明書がインストールされている場合は、証明書アイコン  も表示されます。	これらの設定値の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』の「Cisco CTL クライアントの設定」の章を参照してください。

802.1X 認証およびステータス

[802.1X 認証] メニューと [802.1X 認証ステータス] メニューでは、802.1X 認証を有効にし、認証の進捗状況をモニタすることができます。表 4-21 および表 4-22 に、これらのメニューのオプションの説明を示します。

[802.1X 認証] の設定にアクセスするには、設定ボタンを押して、[セキュリティ設定] > [802.1X 認証] および [セキュリティ設定] > [802.1X 認証ステータス] を選択します。

表 4-21 802.1X 認証の設定


オプション	説明	変更の手順
デバイス認証	<p>802.1X 認証が有効かどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効: 電話機は 802.1X 認証を使用して、ネットワーク アクセスを要求します。 無効: デフォルト設定。この場合、電話機は CDP を使用して、VLAN およびネットワーク アクセスを取得します。 	<ol style="list-style-type: none"> [設定] > [セキュリティ設定] > [802.1X 認証] > [デバイス認証] を選択します。 [デバイス認証] オプションを [有効] または [無効] に設定します。 [保存] ソフトキーを押します。
EAP-MD5	<p>次のメニュー オプション（下記の説明を参照）を使用して、802.1X 認証用のパスワードを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デバイス ID] [共有シークレット] [レルム] 	[設定] > [セキュリティ設定] > [802.1X 認証] > [EAP-MD5] を選択します。
	<p>[デバイス ID]: 電話機のモデル番号と固有の MAC アドレスから生成された ID が、CP-<モデル>-SEP-<MAC> という形式で表示されます。</p>	表示のみ（変更不可）。
	<p>[共有シークレット]: 電話機と認証サーバで使用するパスワードを選択します。パスワードは 6～32 文字で、数字または文字の任意の組み合わせにする必要があります。</p> <p> (注) 802.1X 認証を無効にした場合や、電話機で工場出荷時の状態にリセットした場合、共有シークレットは削除されます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> [EAP-MD5] > [共有シークレット] を選択します。 共有シークレットを入力します。 [保存] を押します。 <p>削除された共有シークレットを復旧する方法については、P.9-10 の「Cisco Unified IP Phone のセキュリティのトラブルシューティング」を参照してください。</p>
	<p>[レルム]: ユーザのネットワーク ドメインを示します。常に [ネットワーク] として設定されます。</p>	表示のみ（変更不可）。

表 4-22 に、802.1X 認証のリアルタイム ステータスの説明を示します。

表 4-22 802.1X 認証のリアルタイム ステータス

オプション	説明	変更の手順
802.1X 認証ステータス	<p>802.1X 認証ステータスのリアルタイム進捗状況で、次のいずれかの状態が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 無効：802.1X は無効であり、トランザクションは試行されていません。 • 切断済み：物理リンクがダウンしているか、切断されています。 • 接続中：オーセンティケータの検出または取得を試行しています。 • 取得済み：オーセンティケータが取得されました。認証の開始を待っています。 • 認証中：認証中です。 • 認証済み：認証に成功したか、タイムアウトにより暗黙的に認証されました。 • 保留：認証に失敗しました。次の試行を待っています（約 60 秒）。 	表示のみ（変更不可）。

